

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室
実施報告書

神奈川県 川崎市立南菅中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

■期 日 : 2019年10月25日 (金)

■ク ラ ス : 2年1組 (36名)

■オリンピアン : 石野 枝里子 先生 (スケート/スピードスケート) 【出場オリンピック/トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックについて学びながら、オリンピックの価値をみんなに伝えていく、と授業の目的を確認。
- ・運動の時間は、「全力で取り組む」、「皆で協力し合う」、「人の話を良く聞く」という3つを意識して取り組むことを約束。
- ・準備体操として、ストレッチ、2人でボール取りを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・スケートリレーを6班対抗で全2回実施。
- ・スケート靴の代わりにエコバックを足に装着し、滑りながら進むリレーでタイムを競う。
- ・終了後に作戦タイムを設け、タイムを縮める方法をみんなで話し合う。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に意識して取り組むよう伝えたことが出来ていたかを確認。
- ・座学の時間では運動の時間に感じたことを振り返りながら更にオリンピックについてみんなで考えていくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・トリノ大会の日本代表選考会の映像を見ながら、スピードスケートのルールについて解説。
- ・石野先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、努力、全力、本気、楽しむ、目標を決める、一生懸命」、「フレンドシップ＝友情、協力、応援」、「リスペクト＝敬意/尊重、感謝、話を聞く、拍手」と説明。

3. グループワーク



- 発問：来年の文化祭をより良いものにするために必要な事をオリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう。
- 発表：計画性を持って取り組む。準備や片づけを全員でする、全力で楽しみ、話をしっかり聞くことでメリハリをつける(エクセレンス)
話し合いを増やす、アドバイスを聞く、協力する、周りを見て行動、1人1人の役割をやり切る(フレンドシップ)
発表中は静かにし、発表後は大きな拍手をする、鑑賞時の態度、裏で支えてくれた人たちや先生に感謝の気持ちを持つ(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピック出場を目指すアスリートだけでなく、皆にとっても重要なことである。
- ・東京2020大会では神奈川県でセーリング、野球・ソフトボール、サッカー、自転車の4競技が開催されるが、勝敗だけでなく、出場選手がどのようにオリンピックバリューを体現しているかを探しながら見てほしい。
- ・オリンピック教室で学んだことを頭も片隅におきながら、さらに良いクラスを作ってほしいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

■期 日 : 2019年10月25日 (金)

■ク ラ ス : 2年2組 (35名)、2年3組 (35名)

■オリンピアン : 伊藤 俊介 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日は2時間を通してオリンピックやオリンピックバリューについて学んでいく、と授業の目的を確認。
- ・授業では多くのことを体感し、特にオリンピックの価値が身近にあることに気づいてほしい、と伝える。
- ・準備体操として、ストレッチ、タッチ鬼を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを2班毎3チーム(90秒間×全3回)で実施。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、各チーム毎より多くと跳ぶための方法を話し合う。
- ・2組では、最後に全員(一斉)跳びも実施。



4. まとめ



- ・授業の冒頭で意識するよう伝えた、3つ(頑張る努力する、協力すること、仲間から声掛けする)のことがオリンピックバリューに繋がっている。
- ・座学の時間では、伊藤先生の経験談を交えながらオリンピックバリューについて学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリピズムとは、スポーツを通して健全な精神や肉体を育むという考えであり、皆の日常生活にも深く関わっていることを伝えたいと、授業の目的を確認。
- ・伊藤先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、努力する、ベストを尽くす、一生懸命頑張る」、「フレンドシップ＝友情、協力、仲間、チームワーク」、「リスペクト＝敬意/尊重、尊敬する、フェアプレー、感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間(8の字跳び)を振り返り、実践したことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：並び方を考えた、引っかかっても諦めなかった、回数を増やすために努力した(エクセレンス)、
声かけをした、大きな声で回数を数えた、跳ぶタイミングを合わせた、縄のまわし方等をアドバイスした(フレンドシップ)
他の班の喜びと一緒に喜んだ、縄を回す人に感謝(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも見出すことができる。エクセレンス、フレンドシップ、リスペクトを意識して日々を過ごし、すばらしい人格を築いていってほしい。
- ・苦手だと感じていることも、挑戦を続けることで克服することができる。
- ・なりたい自分の姿を想像し、そのために何をすべきか考え行動に移してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈
2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了証贈呈

